令和８年度　第１回江南市健康づくり推進協議会　会議録

開催日時　　令和８年 11 月５日（木）　午後２時から午後３時 15 分

場　　所　　江南市保健センター　健診スペース

出 席 者　　出席委員　１６名

長谷川　真子（学識経験者）	岩田　和久（医療関係者）
森　昭一郎（医療関係者）	加藤　眞司（医療関係者）
伊藤　博美（保健関係者）	栗本　浩一（福祉関係者）
櫻澤　弘章（関係機関代表者）	村瀬　勝弘（関係機関代表者）
久村　幸則（関係機関代表者）	後藤　千恵（関係機関代表者）
佐々木　洋治（関係機関代表者）	前川　晶（関係機関代表者）
横山　久美子（関係機関代表者）	山名　久子（関係機関代表者）
中村　久美（市民代表）	藪見　武彦（市民代表）

欠席委員　１名

中野　裕二（市議会議員）

事 務 局　　健康こども部長　健康づくり課長　健康づくり課主幹

健康づくり課健康推進グループ職員３名

傍聴人数　　なし

１．会議次第

＜あいさつ＞

＜報告事項＞

１．第３次健康日本２１こうなん計画の概要について

２．第３次健康日本２１こうなん計画【市の取組状況】について

３．第３次健康日本２１こうなん計画【わたし（個人）の取組状況】について

４．「健康推進に関する協定」に基づく取組状況について

５．他業種連携の状況について

＜協議事項＞

１．女性の健康づくりについて

ご意見・アイデアをいただきたい事項

・ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり・市における女性の健康づ

くりへの取り組みについて

２．会議経過

	【あいさつ】 健康こども部長及び会長あいさつ **【報告事項１～５】**
事　務　局	（資料１～資料５に基づき説明）
会　　長	報告内容へのご質問、ご意見などございましたらお願いします。
委　　員	こうなん健康ガイドの発行、戸別配布について、令和７年実績が横棒になって廃止となっていますが、どういう経緯で廃止になったのか教えていただきたいと思います。費用がかかり過ぎたり、あまり効果がないということが考えられますが実際はどうでしょうか。
事　務　局	廃止の理由ですが、お察しいただいておりますとおり、費用対効果の面で取捨する中で廃止したものでございます。個別配布の代わりに、公共施設などに据え置きという形で配架するものに変わったものでございます。
委　　員	分かりました。
会　　長	費用対効果の面で配布方法を変更されたということで、資料の「今後の方向性」に記載していただくと廃止だけで終わらずよろしいのかなと感じました。 その他、ご質問などありますか。 （質問、意見なし） ご質問、ご意見もないようですので、次の報告事項に移ります。 昨年度の協議会で健康づくりの重点施策について委員の皆様から貴重なご意見をいただいておりました。その意見を受けての市の施策対応について事務局より報告があるとお聞きしておりますので、説明をお願いします。

事　務　局	（説明）
会　　長	昨年度の意見に対して、今年度の施策対応の報告をいただきました。ご質問、ご意見などございましたらお願いします。 （質問、意見なし） 皆さんからの意見が施策にあがり、それが市民の行動変容に繋がるということが理想だと思いますので、今年度も協議を深めていきたいと思います。 それでは、協議事項「女性の健康づくりについて」の説明を事務局よりお願いします。 **【協議事項１】**
事　務　局	（資料６に基づき説明）
会　　長	資料６について説明をいただきました。委員の皆様から、どのようなアプローチをしていくと女性の健康づくりについての課題が少しでも解決していくか、ご意見をいただけたらと思います。
委　　員	小学校では、ライフコースアプローチという面ではスタートに近いところを一番担っていると考えておりまして、小さい時からそういったことを知る、生涯についての健康に思いを馳せるような機会が必要と感じております。 資料にもありましたように、若い女性のやせというところで、定期的に行っている身体測定などでそういった問題を感じています。長期休業明けの体重の増加減少などをみる中で、小学校ですと肥満の子が多く、逆に痩せたりしているととても心配になります。安易なダイエットをしていないかなど、自分の健康についてどういうふうに捉えているかというところで個別指導を行ったりもしております。また、体重が大きく増えていたりすると、食生活の乱れや３食ちゃんと食べているのか、何を食べているのかということにも思いを馳せたりして個別指導をしております。 個別ではなく全体指導としては、保健の授業に養護教諭も入りまして、保健教育に参加しております。喫煙や飲酒については、小学校でも中学校でも学習課題として取り上げられておりまして、生活習慣病とは

	何かというところから小学校で触れたりして、生涯にわたってそれが病気に繋がっていくというお話も中に取り入れて授業を行っております。 また、包括的性教育という視点で、女性の知識や人権についても触れたりして、幅を広げて活動している先生もみえます。小学校、中学校ではお互いを知るという意味でも、女性だけでなく男女一緒に学ぶという形をとっている状況です。
会　　長	ありがとうございます。男女ともにお互いを知るなど、学校での取り組みについてお話いただきました。 続きまして、がん検診や予防接種などを実施されている医療機関の先生方、ご意見いただけないでしょうか。
委　　員	事務局の説明を受けて、がん検診の受診率を上げるための取り組みを色々されていることが分かりましたので、来年の受診率が上がっていることを期待しているところです。 資料を見て気づいたことですが、特定健診自体は半分ぐらいの人が受診されていますが、その中でがん検診の受診率はかなり低いです。特に女性のがん検診である乳がん、子宮頸がんは目標値が 20%以上ですが受診率が１/４にも届いていないという状況で、もう少し受診率を上げなきゃいけないかなと感じます。特定健診を受診されている方に何とか受けていただくような取り組みをされると良いのではないかと思います。
会　　長	特定健診は 50%近くの方が受けているので、その方たちががん検診受診につながるような仕組みというところでのご意見をいただきました。 次に、特定健診やがん検診を実施されている中で何かお気づきになる点がありましたらご意見をいただけないでしょうか。
委　　員	胃がん検診についてですが、胃カメラ検査の受診間隔が２年に１回であるためバリウム検査も２年に１回でいいですよね、という質問を受けることがあります。本当は良くないと思いますが、皆さんそのように考えている人が多いです。 肺がん検診も同じように２年に１回でもいいですよね、というふうに言われてびっくりしたことがあります。アメリカは肺がんを見つける

	ために検診を行う中で大した効果がないということでやめてしまった経緯があります。日本では結核があったので、細々と続けて毎年検診を行うことでがんの人を見つけている歴史があるので、医療サイドとしては是非やっていただきたいと思います。
会　　長	毎年受ける検診と２年に１回受ける検診というところが十分伝わりきっていないことが一つ課題ではないかというご意見をいただきました。 他にいかがでしょうか。先ほど、女性の健康づくりに関するところで産婦歯科健診を４か月児健診とタイアップしたことで受診率が上がり、さらにう歯の保有者が高いということで課題があがっていました。地域の体感やご自身のご経験を踏まえて何かご意見がございましたらお願いします。
委　　員	産婦歯科健診について、令和６年度の受診率が 95.1%とかなり高い比率となっています。令和４年度、令和５年度の妊産婦歯科健診の受診者が 270 人前後から令和６年度で 770 人前後と増えた理由は、妊婦さん・産婦さん本人が歯科医院に行って健診を受ける形から、保健センターの４か月児健診で産婦の歯科健診を令和６年度より同時実施するようになったためです。 体感的には、妊婦さん・産婦さんになると、子ども中心の生活になるため、むし歯を放置する方や定期的に歯科健診を受けられない方が多いように感じています。 産婦歯科健診で、子どもの歯科健診と一緒に親御さんも歯科健診と歯科治療を受けるよう説明することで、歯科医院に子どもと一緒に行ってもらう流れを構築していきたいと思っています。
会　　長	ありがとうございます。子どもを育てている親御さんたちは自分のことをなかなか優先できないため、お子さんと一緒に歯科医院に行くことで健診率の向上を図っていければというご意見をいただきました。
委　　員	４か月児健診の時に、お母さんたちも自分の歯を診てもらったということで、その時子どもさんはどうしていたのですか。
委　　員	お母さんが歯科健診を受けている間は、赤ちゃんはスタッフにみてもらっています。

委　　員	お母さんが自分の治療をしようと思ったら、子どもも連れて行かないといけない。病院受診やがん検診をするにも、自分が一番後回しになるから小さい子どもがいたら凄くハードルが高いです。 歯医者さんに、4か月か5か月の子どもを連れて自分のために治療に行くのは大変ですよね。例えば、歯医者さんで対策みたいなものはあるのでしょうか。
委　　員	中には、保育士さんがスタッフでいる歯科医院があります。
委　　員	女性の健康づくりということで、若い世代の受診率を上げるためには、子どもも連れて受診できるとか、保健センターでも休日の検診もあるようですので、もっと皆さんに周知されるといいなと思います。 土曜日、日曜日に自分が検診に行こうとしたら、子どもを預けるのは夫になるかと思います。夫がどれだけ協力してくれるかで女性の検診受診率も上がるだろうし、ご主人自身もご自分の健康にももっと意識もいくだろうなと思います。まだまだ家事や育児って女性中心だと感じています。そこから抜け出さない限り、解決の道っていうのは開けないような気がします。 私の経験になりますが、自分の体調が悪く1週間我慢しましたが、病院に行かざるを得ない状況になり、夫に仕事を休んでもらい受診することができました。今の時代は働く女性も多く、平日は仕事で土日に溜まった家事をする。そうなると土日はあっても、病院受診に一歩を踏み出せなくなってきます。だからこそ男性の協力が大切で、男性が自分の健康も大事だけど奥さんの健康も大事という意識をもつことで、女性も積極的に自分の健康について考えることができるようになると思います。
会　　長	今のお話は、他の委員からお話を伺った「男女ともにお互いを知る」というところにも繋がってくるのかなと思いました。 今は子育て世代の女性についてお話がありましたが、今年度の健康応援塾で更年期女性の健康について講演をされたと聞いています。事業や普段、薬剤師としての取り組みの中から感じられていることなどありましたらお願いいたします。
委　　員	今年度は健康応援塾で講演させていただきました。更年期の健康と、サプリメントや食事についてのお話、リラックスするのも大事ということ

	でアロマについてもお話をさせていただきました。自分の体とどう向き合っていくかがすごく大事ということを参加者の方に知っていただき良かったと思っております。 他にも保健センターで開催されている産後リフレッシュ教室では、妊娠・授乳サポート薬剤師がお話をする時間をいただいており、その中で感じることは、教室内で質問が出てくる場合もあれば、後日、薬局に連絡があり、妊娠中・授乳中のお薬のことなど相談が入るケースもあります。いろんな面を情報提供していくというのは、すごく大事だと考えております。 先ほどは男性の協力に関するお話がありましたが、産後リフレッシュ教室では、ご夫婦２人で参加される方も最近はすごく増えています。男性の協力という面では安心してもいいのではないかなと思っています。ただ、やはり子どもを抱える女性は病院受診など行きづらいところがあると思うので、何かしらのフォローができるといいのかなと感じております。
事　務　局	事務局からも男性の協力について補足説明させていただきます。 保健センターで開催している両親学級、今でいうハッピーパパママ教室では、昔はお母さんだけの参加がほとんどでしたが２年ほど前からご夫婦での参加が大変多くなりました。２年ほど前から、男性の産後鬱も課題になっていることも含めて背景を確認しますと、子育て生活の想像と現実のギャップが鬱に繋がっていくということでした。 そのようなギャップを埋めるため、ハッピーパパママ教室では、産後の子育てプランと合わせて、役割分担などをご夫婦で一緒に話し合って作る企画を実施しています。企画を通して一緒に仲良くプランニングされた方は、その後、産後リフレッシュ教室にご夫婦で一緒に参加されるなどの姿がみられ、子育ては２人で協力して行うという意識改革が出来ているのかなと感じているところです。 ただ、今年度から９か月児健康相談事業を開始していますが、お母さん自身の体の不調を訴える方が６～７割程います。腰が痛い、首が痛い、肩が痛い、生理不順があるなど色々な体の不調を訴えている割に、産後はそういうものという認識で我慢して生活しているお母さんが多くみえるということが分かってきていますので、色々と対策を講じるとともに、小学校の頃から体のことを学び、「自分の体がすごく大事」という認識を、色々なところで持っていけると良いと感じています。

会　　長	最近のパパ像というものがずいぶん変わっていきて、男性の育児休暇の取得が増えてきているとお聞きしておりました。社会としても理解が深まってきているのではないかと思います。 他、ご意見いかがでしょうか。
委　　員	今でも、ファミリーサポートというシステムはありますか。出来た頃は、声かけが多かったと記憶していますが、今はあまり聞かない気がします。利用者はいますか。
会　　長	ファミリーサポートの制度は子育て支援課が担当していて、毎年養成講座もあり援助会員がいるので一定数の利用者もいらっしゃるというふうにお聞きしています。
委　　員	登録が必要ですか。
会　　長	利用されたい方も、それを受け入れたい方も登録していただいて、 30分だったり１時間だったり、放課後であったり、希望に応じて利用できると聞いています。 事務局から説明をお願いできますでしょうか。
事　務　局	ファミリーサポート事業についてですが、こども家庭センターという子育ての拠点がtoko⁺toko⁻laboの中にありまして、そこの所管が子育て支援課と健康づくり課になります。事業の一つにファミリーサポートセンター事業というものがありまして、子育て支援課が担当となり事業を運営している状況です。 先ほど会長さんのお話にもありましたとおり、毎年養成講座を夏場にかけてシリーズもので行っております。現状の会員さんには、お友達に声をかけていただいて一緒に養成講座に参加していただき、ご関心がある方は登録をしていただくという形をとっていて、地道に援助する側の会員の確保に努めています。 核家族が進んでおりますので、地域で子どもを育てるという観点は大切だと思っておりまして、ファミリーサポートセンター事業については、今後も取り組んでいきたいという事業の一つでございます。 利用される方は事前に利用登録をしていただいて、使いたい日、使いたい内容ということで、マッチング作業を子育て支援課が行っているという状況でございます。

委　　員	分かりました。
会　　長	ファミリーサポート事業は引き続きあるということで、そのご紹介でした。 他、ご意見などいかがでしょうか。
委　　員	私、布袋病院の精神科で勤めさせていただいております。ライフコースアプローチの中で、若年女性のやせという問題がありますが、最近はSNSの影響でやせ願望を持つ方が多く、特に若年層では摂食障害に罹患するお子さんもみえます。あとは栄養面の問題だけでなく、経済的な問題が背景にあり、生活困窮などの問題も含めると、先ほど後藤委員のお話にもありましたとおり学校教育場面からの啓発がとても大事だと感じています。医療との連携、経済的な面だと福祉との連携が必要かを各現場で捉えていただいて、繋げていくようなものが普及するといいなと感じております。 また、妊娠中のアルコールやタバコという問題もありますが、ニコチンは依存物質ですので、妊婦さんに向けての教育というのはとても大事なものになります。依存なので、やめないといけないと分かっていても、やめられないというのが現状だと思いますので、若い世代からの教育というのもとても大事だと感じています。 あとは、アルコールもタバコもパートナーの方の協力が必要です。自分だけタバコをやめてもパートナーが吸っているとまた吸ってしまう原因にもなるかと思うので、そういうものも含めた啓発と、必要に応じて医療機関にも繋げていただけたらというふうに感じております。
会　　長	ありがとうございました。 ご意見ありがとうございました。また、会議後何かお気づきになることがありましたら事務局にご意見をお出しいただければと思います。 事務局には、本日いただいた様々な意見も踏まえていただきまして、来年度以降の健康づくりへのアプローチということでご検討いただければと思います。 では、その他の方に移ってまいります。事務局から報告等はありますか。
事　務　局	この施設の駐車場は、有料の駐車場で車のナンバーを入り口まで読み取る駐車券を発行しないタイプの駐車場でございます。本日、車で来場い

	ただいた方は、無料となる割引券を受付でお渡ししているかと思いますので、お帰りの際に精算機で精算処理をお願いいたします。 報告は以上です。
会　　長	本日予定しておりました協議事項はすべて終了いたしました。議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。 これをもちまして、令和８年度第１回江南市健康づくり推進協議会を終了いたします。お疲れ様でした。